

県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表（平成29年度版）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合		
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○学校からのお便りや連絡帳等から「学校の様子がよく分かる」と80%以上の保護者が答えている。	A	A	A	○連絡ノートを丁寧に書いたり、学級通信に活動の写真を載せたりする等が、保護者に学校の様子と伝えるのに役立っていた。	○保護者との信頼関係を築くためにも、今後も日々のやりとりを丁寧に言い、学校での様子を保護者に伝え、理解していただく。
		○学校行事やP T A活動等に参加している保護者が80%以上である。	A	B	A	○PTA行事の「おまつり」について大きく変えることは難しかったが、昨年度の反省を生かし細かい点について改善し、昨年度よりも混乱することなくスムーズに行うことができた。	○できる範囲で会議の回数を減らしたり、時間を短くできるように議題を精選する。また、会議の進め方、内容を事前にP T A会長や副会長と確認しておく。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○「個別の教育支援計画」について80%以上の保護者から、有用であると評価を得ている。	A	A	A	○新しい「個別の教育支援計画」の書式を活用し、保護者、地域、関係機関との共通理解を図ると共に、アンケートをもとにさらなる書式の改善に取り組んできた。	○活用法等を明記した要項をもとに作成し、保護者、地域、関係機関との連携をさらに深めていく。
		○居住地校交流を実施している児童生徒の80%以上の保護者が満足している。	A	A	A	○交流実施後の保護者アンケートから得た感想や意見を、2回目以降の交流活動に活かすことで、満足感を高めることができた。	○情報交換や打合せを十分行うことで、交流のさらなる充実を図る。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 幼稚園、小・中・高等学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	○地域の幼小中学校への情報発信として地域支援だよりを年3回発行している。	C	B	B	○研修等で得られた特別支援教育に関する情報を地域支援だよりにまとめ、年2回発行した。	○地域支援だよりでの情報発信は、一方向に限られていた。訪問相談時を活用して、現場のニーズを把握して、次の発信へとつなげる。
		○相談依頼のあった幼小中学校のうち、90%の園校について、相談記録の作成・手交を行う。	C	B	B	○相談時に、次回相談日の予定を組み継続して訪問することで、相談記録を手渡しできた。	○相談依頼をした園校の担当が実践できるよう、ポイントを押さえた相談記録の作成に努める。園校の要請に応じて、相談記録が活用されるよう、手立て等を見直していく。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○「個別の指導計画」の立案・評価では、学年・学部での検討と共通理解とを、年6回行っている。	B	A	A	○学年・学部、それに保護者との情報共有に努めつつ、「個別の指導計画」の立案・実施・評価に取り組んできた。書くにあたっての要項やポイントを作成し、共有・共通理解を図った。	○「個別の指導計画」とその考え方を共有・共通理解を図り、これまでの取り組みをさらに発展させる。また、キャリア教育の視点を含めた書式や内容の検討を行い、職員間で共有・共通理解を図る。
		○生活単元学習の指導において昨年度来の研修を活かし、個々の目標を明確にした授業実践と評価に努めていると80%以上の教員が答えている。	A	A	A	○昨年度からの生活単元学習の授業作りに関する研修の成果を生かし、それぞれの教員が児童生徒の達成感を味わわせるための授業実践を心がけてきた。	○生活単元学習以外の自立活動等についても基礎的な研修を深め、研修したことを生かして指導支援を行えるよう研修を計画していく。
		○日常生活に必要な意思をやりとりする力をつけるための具体的支援を90%以上の教員が行っている。	A	A	A	○児童生徒の発信受信の両視点からの具体例があげられた。教師が、子どもに分かる伝え方、思いを汲み取る接し方を意識した支援を行っている。	○本校の学校経営基本方針に則った支援を進められるよう、具体的な支援方法を共有できる機会を設け支援の質の向上を図る。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	A	A	A	○段階別指導内容表や到達段階表等を活用して授業改善に努めるとともに、保護者との情報共有を行い、共通理解を図った。	○今後とも、授業改善に努めていくとともに、確実な定着を意識した目標設定や家庭との連携を進めていく。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○児童生徒の健康上の配慮や対応について学期に2回以上、面談や連絡ノート等で、保護者と情報交換を行っている。	A	A	A	○面談や連絡ノート等で担当が保護者との情報交換を十分に言い、学部主事・学年主任を軸に職員の共通理解を図り、支援することで、95%の保護者の満足を得た。	○健康上、配慮が必要な児童生徒について、年度始めに職員へ周知し、共通理解を図る。
		○嘔吐処理方法やてんかん発作時の対応、A E Dの使用法等を、学期に1回確認している。	C	A	B	○嘔吐処理方法や、てんかん発作時の対応、AEDの使用方法を職員に周知徹底を図った。救命講習を実施し、AEDの使用方法を確認した。	○各マニュアルの周知を、年度の早い時期に行い、児童生徒の支援に生かせるようにする。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○地域防災活動マニュアルに基づき、全職員、保護者に対しN T T伝言ダイヤル利用の体験を6月、9月、12月、3月の年4回実施する。	A	A	A	○NTT伝言ダイヤルの利用体験を、保護者・教職員とも年4回実施することができた。実施の際にアンケート調査を行い、改善に努めた。	○保護者、教職員ともに、防災意識を高めることができるように、NTT伝言ダイヤルの利用体験、保存食の取り組みの継続と、引渡し訓練の取り組みを進めていく。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○キャリア教育全体計画について、全教員の理解を図るための研修を年に1回以上実施している。	A	B	B	○キャリア教育の研修等を基に、キャリア教育を学校全体としての実践していく視点をもつことができた。キャリア教育全体計画を改善するには至らなかった。	○キャリア教育を学校全体として実践できるように、個別の教育支援計画の目標をキャリア教育の能力領域別に分析し、実施を試みる。また、実施を行いながら、児童生徒や保護者のニーズを基に、キャリア教育全体計画を改善する。
		○外部講師による、授業や生徒理解のための教員の研修を年に2回以上実施している。	A	B	B	○外部講師による高等部に関する授業を通して、中学部3年生の生徒の進路選択の意欲を高めることができた。進路指導部構成員を対象とした職業適性検査の演習を通して、就業体験や作業学習における生徒理解の視点を深めることができた。	○生徒の進路選択の力を高めるために、中学部の各段階において計画的に指導を行えるようにする。また、職業適性検査を中学部全体で実施できるようにして、中学部教員の生徒理解を深められるようにする。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○進路に関する行事を、年間10回以上実施している。	A	A	A	○過年度より実施してきたものに加え、中学部について、地域の就労系の関係機関の方々が授業を参観したり、本校職員と意見交換を行ったりすることができた。	○就労系だけでなく介護系の関係機関の方々に本校の授業を参観していただき、本校の進路指導について、広く地域の方々にご理解いただけるようにする。
Ⅵ 組織を意識して働いていますか。	10 PDCAサイクル活用を徹底していますか。	○80%以上の分掌（部）で、反省から挙げられた改善策を生かした計画を進めている。	A	A	A	○各部とも、今年度の実施から捉えられた課題と改善案を次年度に向けてあげることができた。	○計画時に目的と評価方法を事前に明確にしておき、見直しをすることを定着させる。